

古文化

受け継がれる、日本屋根の伝統美。

第124号



厳島神社
[広島県廿日市市宮島町]



公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会

表紙 ● 古文化にロマンを求めて

厳島神社

[広島県廿日市市宮島町]

由緒・歴史

瀬戸内海に浮かぶ厳島(宮島)は、太古の時代から島そのものが「神」と考えられ、信仰の対象とされてきました。陸地では畏れ多いと潮の満ち引きするところに社が建てられたと言われています。

厳島神社の創建は推古天皇御即位の年(593)と伝承され、以後信仰の中核として存続しました。その後、安芸守を務めていた平清盛が厳島神社を篤く崇敬し、仁安3年(1168)に寝殿造の様式を取り入れた社殿に造営されました。清盛の官位が上がるにつれ平家一門のみならず、承安4年(1174)に後白河法皇の御幸、治承4年(1180)3月と9月に高倉上皇の御幸があるなど、多くの皇族・貴族が参詣され、都の文化がもたらされました。

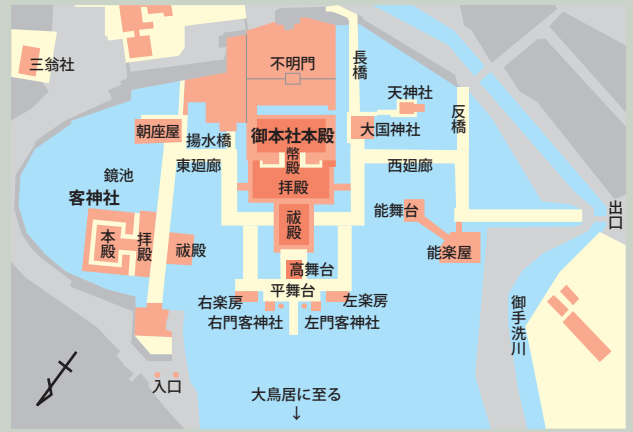
厳島神社に対する崇敬は、平家から源氏の世になっても変わることなく、又時代が移り室町時代の足利尊氏や義満、戦国時代の大内氏、毛利氏などからも崇拝されました。

御本社本殿・幣殿・拝殿等の社殿、大鳥居・五重塔・多宝塔からなる建造物群は6棟が国宝、11棟3基が国の重要文化財に指定されており、平成8年(1996)、厳島神社と前面の海、背後の原生林を含む弥山などがユネスコの世界文化遺産に登録されました。

社殿建築

厳島神社の各社殿は廻廊によって結ばれています。入口から歩いて最初に通るのが、客神社です。厳島神社の祭典はこの客神社から始まります。御本社は祓殿、拝殿、本殿、幣殿の4棟から成り、海側に張り出した「平舞台」の中央には舞楽を演ずる「高舞台」が設けられています。本殿には、市杵島姫命・田心姫命・湍津姫命の三女神が祀られています。

廻廊入口の屋根は切妻造で、出口は唐破風造になっています。全長約270mあり、1間ごとに釣灯笼が下げられています。床板は1間に8枚敷いてあり、板と板の間に隙間を設け、潮の圧力から建物を守る工夫がされています。



境内配置図

高舞台・平舞台(国宝)／「高舞台」は「日本三舞台」の一つ



© Shintani



御本社・客神社とともに国宝に指定されている廻廊

大鳥居

御本社の社殿から沖合約200mの位置にそびえる大鳥居。現代の大鳥居は明治8年(1875)に再建された8代目です。「両部鳥居」と呼称される形式で、2本の主柱の前後に袖柱を立て、主柱と袖柱を貫で繋いだ合計6本足。高さは奈良の大仏とほぼ同じ16メートル、総重量は約60トンになります。海底面に柱が埋められているように見えますが、固定はされておらず、鳥居自体の重さで立っています。



© Shintani

「海上社殿」とも呼べる、他に類を見ない社殿群

初心忘るべからず



連日報道される新型コロナウイルスのニュースに落ち着かない日々が続いておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。未知のウイルスとの戦いは、なかなか終わりが見えず、私たちの力を試されているようにも感じます。

さて、文化財屋根葺師養成研修事業を9月から開始しております。例年ですと開講式及び修了式を執り行い、研修生をご紹介できる場を設けていたのですが、コロナウイルス感染防止のため、中止とさせていただきます。研修事業自体の実施についても危ぶまれるような状況ではありましたが、議論を重ね、実施させていただくことを決定いたしました。

次代を担う職人の養成事業は当会にとって重要な柱です。苦しい状況であるからこそ、これまでの歩みを止めてはならない。そうした強い決意の下、指導員も含め一丸となって取り組んでいるところです。

さて、研修生の皆さんとは研修がスタートして間もなく、河内長野市市有林での檜皮採取研修に行きました。4名の内の一人は檜皮採取者(原皮師)養成研修事業に参加されていたので問題なく作業されていましたが、他の3名はまったくの未経験ということで、大変苦労されていました。1週間という短い期間では、屋根葺の材料として使用でき得る質の檜皮を採取することは難しかったと思います。ただ、今回は、檜皮採取技術を経験することにより、檜皮材料の貴重さや原皮師の作業の大変さ、そして何より自然の恵みの大切さを感じてもらうことが一番の目的です。今後の研修では、材料整形や屋根葺を学んでいく中で、檜皮葺工事の全体の流れを掴んでいってください。採取研修もそうですが、こういった経験が、将来、必ずプラスになってくることと思います。1週間と短期間ではありましたが、皆さんの仕事に取り組む姿勢には大変感心させられました。この初心を忘れることなく、今後の研修に取り組んでいただければ、屋根葺師の基本的な技術と知識、そしてかけがえのない仲間でありライバルを得られることになると思います。そして、研修期間中は真剣に取り組んでいただき、将来の檜皮葺・柿葺を守り伝えていける立派な職人になれることを期待しています。

最後になりましたが、厳しい状況の中、講義や実習でお世話になる皆様には、心から感謝申し上げますとともに、お力添えを賜ります様、よろしくお願い申し上げます。

令和2年12月吉日

公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会

会長 大野 浩二

令和2年度 檜皮採取者(原皮師)中級研修 始まる

令和2年度の檜皮採取者中級者研修は、新型コロナウイルス感染予防対策として、『新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン』『新型コロナウイルス感染予防実施マニュアル』を作成し、9月14日より開始しました。

本年度は、大又国有林、城山国有林、三上山国有林、賤母国有林、京北市有林、増位山国有林、妙法山国有林、地獄谷国有林にて研修を予定しています。1クール2週間で入山し、限られた時間の中での作業になります。

コロナ禍でまだまだ不安な日々が続きますが、技術をつなぐことの大切さを改めて感じ、研修を進めていきます。研修林をご提供くださった各森林管理署の皆様、山林所有者の皆様、各森林の関係者の皆様に感謝申し上げます。今後ともご理解とご協力をお願い致します。



歩道整備／賤母国有林



檜皮採取／賤母国有林



檜皮採取／大又国有林



檜皮切断／大又国有林

文化財屋根葺士養成研修 第24期生 前期研修 始まる

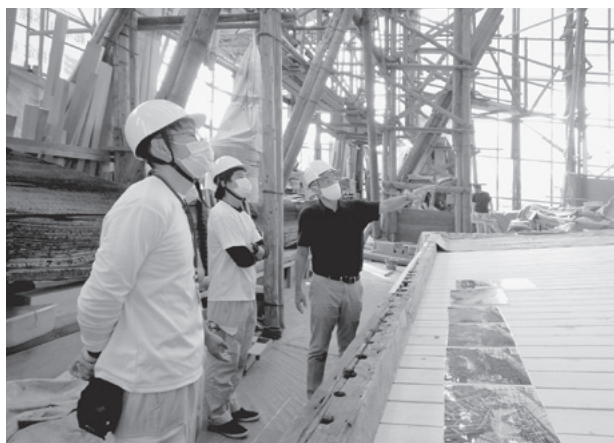
新型コロナウイルスの感染状況から、実施を見合わせていた養成研修を9月より開始いたしました。期間の短縮や来年度への延期も検討いたしましたが、長きにわたり継続されてきた養成研修事業の歴史を途絶えることなく続けていくこと、また、このような状況においても「人を育てる事業」は止めてはならないとの強い決意のもと、実施を決定しました。

研修生をはじめ、研修に携わるスタッフ一同が、感染予防対策をしっかりと取り、例年通りの研修内容を実施します。講師の皆様や指導員の方々には例年になく対応を取っていただくことになり、気苦労やお手数をお掛けしながらの実施となりますが、当会の根幹となる事業となりますので、皆様のご協力をご理解を頂きながら、前期研修の終了まで進めていきたいと思っております。

研修生については、このような状況下でも臆することなく、目の前の仕事に集中し、技術研鑽に励んでいただきたいと思っております。



材料整形／檜皮の拭え



現地実習／建築史演習(上) 本隆寺・(下) 清水寺 三重塔



座学／日本建築史



実習／檜皮採取

●研修生の紹介と抱負

本来であれば開講式場で皆様にご紹介するところですが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため今年度は開講式を見送りました。そこで本号の紙面をお借りし、

ご紹介をさせていただきます。

2年間お世話になりますが、どうぞよろしくお願いたします。

橋本 浩太郎 (26歳)

(株)河村社寺工殿社
経験年数3年



父親の紹介がきっかけでこの業界に飛び込みました。最初は右も左も分からず、戸惑う毎日でしたが、一緒に仕事をしている先輩の姿に憧れ、「あんな風になりたい」そう考えるようになってから、この道で真剣にやっいていこうと強く思うようになりました。2年間の研修を最後までやり遂げたいと思っています。

山田 勇生 (22歳)

(株)児島工務店
経験年数3年



祖父がタイル職人だったこともあり、その仕事を見ながら「カッコいい職人になりたい」そう思い、この道を志しました。まだまだ分からない事は多いですが、研修を通じて様々なことを身に着けたいと思っています。

品川 琉心 (21歳)

田中社寺(株)
経験年数2年



小さい頃に出会った知り合いの大工さんの雰囲気憧れ、大工を目指していました。高校の時に、建築関係の求人を探していましたが、担任の先生から現在の会社を紹介していただき、興味を持ったことがきっかけで今に至ります。想像していた仕事とは正直違いましたが、自然を生かし技術を残していくという仕事にやりがいを感じています。

川瀬 皆人 (21歳)

田中社寺(株)
経験年数1年



中学生の時に多賀大社の屋根をみて「こんな屋根を葺いてみたい」そう思い、この道を目指しました。就職を考える時、中学・高校と剣道をやっていたので、初めは消防士を目指していましたが、他の人とは違う仕事してみたかったということもあり、探しているうちに屋根葺士という仕事を見つけました。そして再び多賀大社を見に行ったとき、その美しい屋根に、雷が落ちたように感動しました。今は、この仕事がとても楽しいです。そしていつかは自分が受けた感動を他の人にも与えられるような屋根を葺きたいと思っています。

●講師からのメッセージ

[講師]
京都女子大学客員教授
齋藤 英俊



講義項目：日本建築史
内 容：「桂離宮の意匠と文化的背景」

[講師から]

去る9月28日と10月14日の2回に分けて行いました私の講義に関しては、長時間にも関わらず、熱心に受講していただき有り難うございました。

私が桂離宮の建築の文化的背景と意匠に関して詳細に紹介した意図は、建築は単にそのスケールや形の良さ、豪華さだけで評価するのではなく、その建物がなぜそのような形やデザインなのかを考えることが大事だと思うからです。そのような建物を生んだ背景としての時代や文化を知れば、その建物を正しく鑑賞し、その建物の価値を深く知ることができます。

皆さんは、これから一般の人が近寄れないような歴史的に価値の高い建物を間近にして仕事をする機会が多くなると思います。皆さんが担当する建物を単に仕事場として考えるのではなく、そうした建物が生まれた時代や文化的な背景を学べば、仕事が一層楽しく、やり甲斐を感じられるものになると確信しています。

柿葺や檜皮葺の伝統の技が構成要素の一つとなっている「伝統建築工匠の技」が、この12月にUNESCO無形文化遺産に登録されることが決まりました。皆さんが背負っているのは、世界に類例のない貴重で素晴らしい人類の宝です。20年、30年後には皆さんが中心となって、日本が世界に誇る技を伝えていくことになります。皆さんの研鑽と活躍を期待しています。



[講師]
(公財)文化財建造物保存技術協会
加藤 修治



講義項目：日本建築の構造と仕様
内 容：建築計画／東西南北（磁北、真北）、
水平・垂直、寸法、平面計画など
建築構造／基礎、壁、屋根、耐震など
事例紹介／安楽時八角三重塔（年輪年代法）、
姫路城大天守保存修理、平城宮大
極殿正殿

[講師から]

先日、全国社寺等屋根工事技術保存会から依頼があり、養成研修で若手と話す機会があった。阪神・淡路大震災の話をしたところ、まだ生まれていないとの返事。まだ20代の職人であった。

現在、第一線で屋根葺をしてきている職人さんにも若い時があった。10代、20代だった職人さんが、今も屋根葺の仕事が続けてきている。久しぶりに会うと声を掛けてくれて、むかし話に花が咲く。

文化財建造物の修理は、20年、30年するとまた次の修理が巡ってくる、一度では終わらない。職人さんに聞くと、前回の修理では、「ここをこうした。ああした。」と言う話が出てくる、経験がモノを言う。いくら本で勉強しても、実際にさわらないと分からないことが多くある。今回の研修生と話している時にも、「内はこう納める。」というような、経験しないと出てこない言葉ができて頼もしく感じた。

檜皮葺・柿葺・茅葺等の仕事は根気がいる。体には気をつけて永く続けて欲しい。年号が令和に変わり、もうすぐ3年目が来る。これからどんな時代がくるかわからないが、文化財屋根葺土の仕事は変わらずある。自分が関わった建物には思いがこもる、百年、千年先に残っていく。次の世代に受け継ぐため、屋根葺土として、未永くこの仕事を続けていってくださることを願う。



●講師からのメッセージ

〔講師〕
京都府文化財保護課
小宮 睦



講義項目：建築史演習

内 容：京都府における文化財建造物の概要
保存修理の基本的な考え方
保存修理の実際（耐震補強工事について等）
【現地実習】清水寺／伽藍配置の変遷、組手、
耐震補強や塗装工事
（彩色）について
本隆寺／半解体工事の実際

〔講師から〕

先日の研修では、屋根に限らず文化財建造物の修理がどのように行われているかという全般的なお話をいたしました。日本の建物において屋根が占める割合は、それは雨風を防ぐという機能から美的な要素までも含めて、非常に大きなものがあると思います。建築を支える技術はいろいろありますが、屋根がないと建物が完結しないのは当たり前のことです。皆さんはその屋根を葺き上げる技術、技能を習得すべくこの道を選ばれたわけですが、是非ともいろいろな建物の修理を経験され、実績を積み、誇りをもって、伝統建築の継承の一翼を担っていただきたいと強く願っています。



〔講師〕
高橋事務所
高橋 弘次

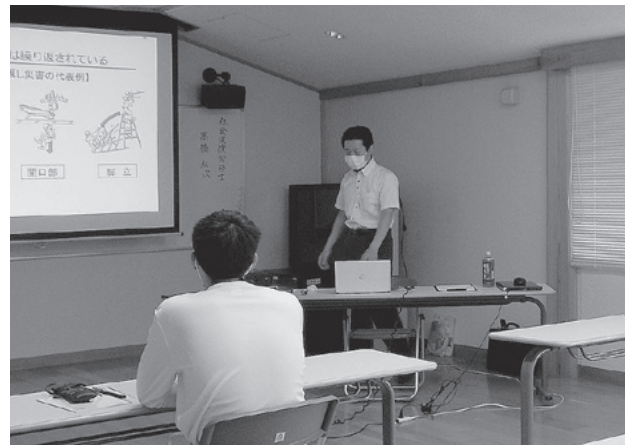


講義科目：労働安全衛生法

内 容：法律の立法主旨と歴史的背景
労働災害の発生メカニズムとその防止策
災害事例の紹介とその発生時の対応
熱中症の予防と対処策

〔講師から〕

法律の条文を単に説明するだけでなく、現場の実態に即した内容で講義を致しました。特に災害事例や災害発生時の対応の話については研修生の皆さんも熱心に聴講してくれました。今後も安全には十分留意し、有意義な研修を行っていただきたいと思います。



〔講師〕
office 萬瑠夢代表
村田 信夫



講義項目：文化財保護法

内 容：文化財保護制度の概要

文化財保護の体系

文化財保護の制度（設立までの経緯と改正の歴史）

伝統的建造物群保存地区について

文化的景観（重要文化的景観）について

〔担当から〕

村田先生には養成研修の講義のみならず、当会が実施する多くの研修事業でご指導をいただいております。

本講義では、文化財保護法が設立された主旨や歴史的背景、時代とともに保護の対象や内容が変遷してきたこと、また実際にご自身が指導された建造物や伝建地区の事例も紹介いただき、幅広い視点で講義をいただきました。対話形式で講義を進められ、研修生にとっても、よ

り理解を深められる内容になったのではと思います。「怪我に気を付けて、辞めずに続けてほしい」という先生の言葉に、若手職人に対する優しさと大きな期待を感じました。



●現場実習の風景と 指導員からのお言葉

屋根葺土養成研修事業では講義などの座学と実技の実習を組み合わせることで進めております。研修センターでは講義と材料整形実習を主に行っていますが、実際の修理現場を活用した「現場実習」を研修生派遣事業所が施工する保存修理現場で実施しております。

研修期間●令和2年11月2日（月）～11月6日（金）

研修内容●檜皮屋根撤去工事及び実測・調査実習

指導員●寒河江 清人（田中社寺株式会社）

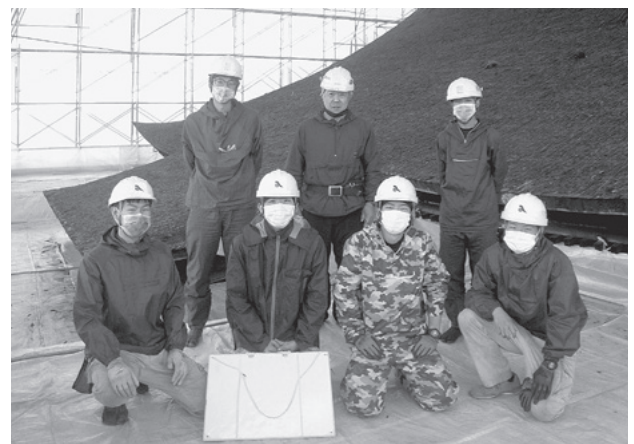
「生きた現場」での実習は研修生にとっても貴重な経験です。所有者の皆様を始め、設計監理者ほか皆様方のご理解とご協力に心より感謝申し上げます。



【指導員からメッセージ】

今回の実習では屋根の実測や面積の算出方法、解体手順と納まりの確認方法を指導いたしました。

研修生それぞれに屋根図面を渡し、各々実測図面を作成してもらいました。4名とも熱心に取り組んでおり、質問や確認も多く、受講態度は良好でした。今後も成長していってくれると思うので、個々の性格、特徴を生かし指導を続けていっていただきたいと思います。



研修期間●令和2年11月9日(月)～11月13日(金)

研修内容●屋根葺実習(柿葺)

指導員●道繁 康(株式会社児島工務店)



[指導員からメッセージ]

水切銅板から上目板、平葺までの屋根葺工事の基本的な施工を指導いたしました。研修生それぞれに技術を習得しようという強い意欲が見られ、指導に対しても熱心に耳を傾け、吸収しようとする姿勢が多く見られました。技術習得には時間がかかりますが、今後も丁寧に指導を続けていっていただきたいと思います



●現場実習の風景と 指導員からのお言葉

研修期間●令和2年11月16日(月)～11月20日(金)

研修内容●屋根葺実習(檜皮葺)

指導員●河村 雅史(株式会社河村社寺工殿社)



[指導員からメッセージ]

境内社の檜皮葺実習を行いました。小さな建物でしたので仮設から解体、実測・調査、そして屋根葺まで一連の工程を実習することができました。4人とも基本的な技能は備わってきているのですが、使用する道具の準備や次の工程を考えた作業の組み立てなど、落ち着いて作業を進められるようにしていきます。また、葺ムラができるとう簡単に皮を削ったりする部分も見受けられました。皮の並べ方、釘の打ち方、指先から伝わる感覚によって、綺麗に葺き上げることが基本ですので、しっかりと身に着けるようにしてください。期間中、研修生は熱心に取り組んでおりました。さらに研鑽を積んでいただき、今後の技術向上に期待しています。



主任文化財屋根葺士 認定証 更新講習会 実施

期 日 ● 令和2年11月13日(金)
会 場 ● 京都市文化財建造物保存技術研修センター

今年度は、京都女子大学 家政学部より鶴岡典慶教授を講師にお迎えし、更新講習会を行いました。多くの更新者が参加し、檜皮葺14名、茅葺1名の更新を行いました。

認定から3年毎の講習ですが、本年は更新が始まってから初めて、大規模感染症(Covid-19)を原因とする講習会に参加できない人員が出ることとなりました。その大変な社会状況の中でも、更新者は、鶴岡様の講義に熱心に耳を傾け、二重軒付の変遷や若手育成について意見

を出し合い、議論を交わしていました。また、若手育成についての課題や素屋根がある状態での施工量が思っていたより伸びていないという指摘について、各参加者よりいろいろな反応が見受けられました。

特に今回、「更新講習会に参加している認定証保持者は、現場の代理人であり施工を管理する立場であるという意識を持たなければならない、ある意味職人作業をしているだけではやっていけない時代である」という認識を鶴岡様から更新者に問いかけてられているものであったように思います。

保存会としても上記を含めたさらなる意識向上や技能向上のため、講習会や研修を重ね、若手育成や意識改革に力を注いでいく所存です。



鶴岡典慶教授による講義



感染症拡大防止対策を考慮しながら実施した講習会

●更新講習会を受講して

今までは、現場の納まりや自身の技術向上等に意識を持ちがちでしたが、現場での立場、現場代理人や主任技術者(監理技術者)としての役割について、また発注者、所有者さんとの現場工事の調整、主任技術者として工程管理や協力業者等の調整管理、安全面などについての大切さを再認識致しました。

現場修理の考え方では、軒付けを例に挙げさせていただき、二重軒の上・下の割合や軒なげなど固定観念にとらわれず、解体時の調査、観察を十分に行いながら寸法や方針を決めるなど、鶴岡先生にはわかり

更新者 村上 章浩

やすく説明していただきました。

技能の諸問題については、他事業者さんの意見もあり、若い新人をどのタイミングで屋根葺に入れるかなど、自分たちが習った時とは意識の違いが出てきていると感じましたが、共に同じ思いで取り組んでいるのだと理解でき良かったと思いました。

今回の講習を参考に、今後の現場での作業や管理、若い者への教育や指導に生かしていきたいと思えます。

京都女子大学「伝統技法演習」 課外講義を実施

日時 ● 令和2年11月25日(水)、12月2日(水)
13:00～14:30
会場 ● 京都市文化財建造物保存技術研修センター

京都女子大学 家政学部では、7年ほど前から伝統木造建築の技法を学ぶ「伝統技法演習」の一環として、檜皮葺をはじめとする伝統的屋根工法や当会の研修事業などの取り組みを見学する課外講義を実施されております。今年度は鶴岡典慶教授の引率により、学生約70名が2日間に分かれて来館されました。

当日は、屋根養成研修生の実習風景の公開、伝統的屋

根工法のDVD上演、さらにスライドを使用して当会の研修事業の取り組みを紹介させていただきました。檜皮葺などの技術や工法を、初めて見る学生も多く、興味深く見学されていました。

これまで継続して実施してきた中で、この講義をきっかけに職人の道に進んだり、文化財保存修理の設計管理に携わったりする者も出てきています。今後もこういった取り組みを通じて、私たちと共に伝統技術やそれを支える文化を広く発信してくれる人材が輩出されることを願います。短い時間の中でしたが、我々の技術や想いの一端を少しでも感じていただけたら幸いです。ご来館いただき、ありがとうございました。



実習風景の公開



DVD上演



研修事業 取り組みの紹介



檜皮葺の体験

令和2年度 ふるさと文化財の森 「森が支える日本の技 2020 公開セミナー」開催

コロナ禍での開催という、非常に難しい状況の中で、実施するか否か、ぎりぎりまで判断のつかない状況ではありました。しかし、当会事業の二枚看板である養成研修事業と普及啓発事業。どちらも欠くことはできません。厳しい状況だからこそ、これまでの歩みを止めることなく事業を進めていく。これが私たちの出した答えでした。開催内容については感染拡大防止の観点から、技術の実演と京都市文化財建造物保存技術研修センターでのパネル展示に限られましたが、我々の「技」の一端をご覧ください。いただくことができました。

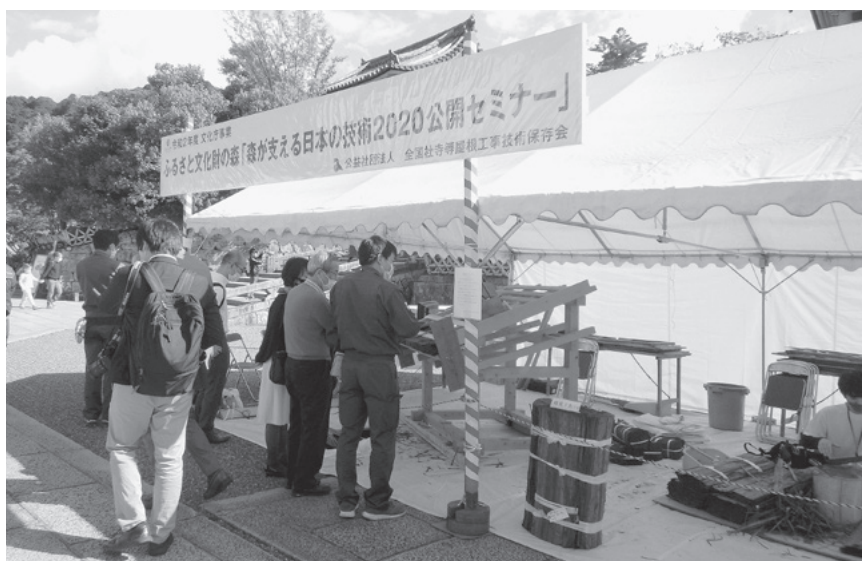
清水寺境内では屋根葺士養成研修生による技術の実演を行いました。模型を使った軒付実習や屋根葺実習、檜皮材の拵えなど檜皮葺の基本的な技を公開いたしました。例年実施していた体験コーナーは感染予防の観点から見送りましたが、それでも参拝に訪れた皆さんは熱心

にご覧になっていました。

京都市文化財建造物保存技術センターではパネル展示を行いました。来場者は少なかったものの、それ故にゆっくりとご覧いただけたのではと思います。清水会場でもそうでしたが、来場者が少なかったからこそ、こちらの説明にも足を止め、じっくりと話を聞き、納得されて帰られる方を多く見受けました。コロナ禍故の利点と言いますか、より深く、丁寧な開催になったのではと思っております。

古来から黙々と技を引き継ぎ、単に現場で仕事をするだけでなく、こういった機会を通じて、私たちの技を身近で感じてもらい、技術だけでなく、技術の裏に隠された想いを少しでも感じていただければ幸いです。本年もこのような機会を与えていただき、関係者の皆様にこの場をお借りして、厚くお礼を申し上げます。

- 名 称 ● 令和2年度 ふるさと文化財の森「森が支える日本の技 2020 公開セミナー」
- 主 催 ● 公益社団法人 全国社寺等屋根工事業技術保存会
- 期 日 ● 令和2年9月30日(水)、10月24日(土)、11月21日(土)
- 会 場 ● 京都市文化財建造物保存技術研修センター(京都市東山区清水2丁目205-5)
清水寺(京都市東山区清水1-294)
日吉大社(滋賀県大津市坂本5丁目1-1)
- 共 催 ● 京都市
- 後 援 ● 京都府教育委員会、京都市教育委員会、林野庁 近畿中国森林管理局 京都大阪森林管理事務所、
公益財団法人 大学コンソーシアム京都、公益財団法人 京都古文化保存協会、
公益財団法人 京都市文化観光資源保護財団



開催内容

1、文化財を支える技術の公開

期 日 ● 令和2年10月24日(土)

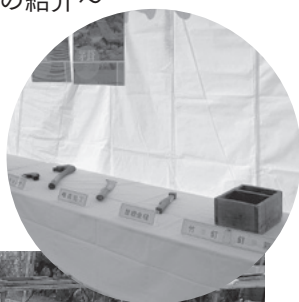
会 場 ● 清水寺境内

京都市文化財建造物保存技術研修センター

(1) 「未来につなぐ匠の技」
～伝統的屋根工事技法の紹介～

1. 檜皮拵え
2. 檜皮葺

道具展示



檜皮拵え



技術の実演に足を止める見学者



檜皮葺

(2) 資材採取方法の展示
(パネル・道具展示)



2、檜皮採取実演 見学会

期 日 ● 令和2年11月21日(土)

会 場 ● 日吉大社 境内林

日吉大社境内林において、檜皮採取技術の実演見学会を行いました。実演場所が境内へ続く参道のすぐ横でしたので、参拝に訪れた多くの方々が足を止め、実演の様子に興味深く見学されておりました。

実演には当会の会長でもある選定保存技術保持者の大野浩二があたり、剥きはじめから結束作業に至るまで、時折説明も交えながら実施いたしました。主催する私たちも何度も見ている風景とは言え、何気ない作業の中に、木を傷めない思いやりと、ブリ縄と呼ばれる縄一本で木を登っていく姿は、圧巻というか感動すら覚えます。檜皮採取が檜皮茸と共に、長い歴史の中で途絶えることなく続いてきたのは、森に対する感謝の気持ちと、その

上にたつ高度な技術があつてこそ。昨今、SDGs という言葉が盛んに叫ばれていますが、持続可能な森林を育成していくうえでも我々の技術は非常に重要な役割を担っています。

コロナ禍により、ものの見方が大きく変わってきている今だからこそ、先人たちから連綿と受け継がれてきた技術を公開することに大きな意義があると改めて感じます。今後もこういった取り組みを通じて、多くの方々に知っていただく機会を提供できればと思います。最後に、本見学会に際し、大切な境内林を提供していただきました日吉大社様はじめ、関係者の皆様に紙面を借りて厚く御礼申し上げます。



皮の剥きあげに興味深げに写真に収める見学者



結束した皮の切断

3、関連・同時開催事業

資材育成に関する研修事業（森林整備）

期 日 ● 令和2年9月30日(水)

会 場 ● 鞍馬山国有林



今年度は、平成30年度・令和元年度に植樹した檜の苗が順調に生育するため、下草刈りを行いました。

地味な作業ですが、手間を積み重ねることの大切さを痛感し、植樹した苗の1本1本が元気に育ってほしいと願いながら作業に取り組みました。

発行所

京都市東山区清水二丁目 205-5
文化財建造物保存技術研修センター内



公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会

TEL 075-541-7727 FAX 075-532-4064
<http://www.shajiyane-japan.org>

古文化 第124号

令和2年12月25日発行

乱丁・落丁本はお取り替えいたします。

あとがき

新型コロナへの感染が再び拡大しているなか、アメリカでは大統領選が行われ、激戦の末、民主党のバイデン前副大統領が当選に必要な選挙人の過半数を獲得し、勝利宣言をしました。トランプ氏の米国第一主義からバイデン氏が掲げる融和路線に期待する声も多いようです。

寒さが増し、コロナウイルスとインフルエンザの感染が心配されます。感染防止に留意しながら、がんばっていきましょう。

11月末日に予定しておりました当会報の発行が遅れましたことをお詫び申し上げます。

田中 正光さんの古里

「大仏を復活させた武人画家 山田 道安」

(奈良県天理市)

やま だ どうあん

山田 道安

田中正光さんのふるさ
とである奈良県天理市山
田町は、標高500mの高
原地帯にある。町内の尾
根筋にはかつて岩掛城と
呼ばれる山城が建ってい
た。城主 山田道安は戦
国武将であると同時に画
人であり、彫刻もよくし
た。とくに東大寺の大仏
の修復に尽力した武人画
家として名高い。

誰もが知る東大寺の
大仏さまは、奈良時代の
造立とはいいながら二度
の火災に遭った折、銅で
铸造されたお体のあらか
たが破損している。道安
が生きた時代にも大仏殿
から火が出て建物は全焼
し、大仏さまの頭部が融
け崩れた。大仏殿と大仏
さまは聖武天皇の発願に
より国家事業として建立
された巨大建造物だ。戦
国の混乱期にあって多額
の費用を要する再興は不
可能と思えたらう。それ
でも道安は大仏修復と大
仏殿再建のための勸進
(寄付募集)を行い、自
ら費用の大半を負担した
ばかりか芸術家としての
腕をふるって溶解した仏
頭の修復にあたった。

とはいえ本来の銅による
铸造にまでは手が届か
ない。



大仏さまの頭部を木組み
で作り、その上に銅板を
貼っていわば張り子の頭
を据えることにした。仮
設ながら設けた大仏殿は
台風によって倒壊。張り
子の頭を乗せた大仏さま
は以後数十年間露天に座
すことになる。江戸時代
中期になってようやく幕
府公認の勸進が行われ、
大仏殿と大仏さまは再建
された。道安の努力がな
ければ現代にお姿を残す
ことがなかったかも知れ
ない。

山田町のもうひとつの
自慢は大和茶の生産地
であることだ。昼夜の温
度差が大きな地域である
ため昼間に作られた糖類
が消費されることなく茶
葉に残り、甘みがある茶
ができるのだという。

茶は鎌倉時代に中国か
ら種を持ち帰って全国に
広めた栄西禪師が茶祖

として崇められている。しかし奈良ではそれよりはるか
以前、平城京において儀式の席で茶がふるまわれていた
記録がある。あるいは平安時代に弘法大師が唐から持ち
帰った茶の実が大和茶の始まりともされ、奈良の都の榮
華は茶の香りとともに今に残されている。

古文化

第 124 号



公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会